

## 日本赤十字秋田看護大学におけるオンライン授業開始に向けた取り組み

阿部 範子<sup>1)</sup>      小野 麻由子<sup>1)</sup>      新田 純子<sup>1)</sup>  
南部 泰士<sup>2)</sup>      菖蒲 澤幸子<sup>3)</sup>      鎌田 隆一<sup>1)</sup>  
石田 新<sup>1)</sup>

### Report on the implementation of online classes at the Japanese Red Cross Akita College of Nursing

Noriko ABE<sup>1)</sup>,              Mayuko ONO<sup>1)</sup>,              Junko NITTA<sup>1)</sup>,  
Hirohito NANBU<sup>2)</sup>,      Sachiko SHOBUZAWA<sup>3)</sup>,      Ryuichi KAMADA<sup>1)</sup>,  
Shin ISIDA<sup>1)</sup>

#### 要旨：

本学オンライン授業検討プロジェクトは新型コロナウイルスの感染拡大に伴いオンライン授業の稼働を可能とさせる目的で立ち上げられたプロジェクトである。本プロジェクトチームが中心となりながら、多くの教職員の前向きな協力のもと、授業実施に至った経緯と取り組みを報告する。

【オンライン授業開始に向けた取り組み】(1) 授業方法に関する学内での取り組み (2) 教員の授業配信支援に関する取り組み (3) 学内設備に係る取り組み (4) 学生への平等な受講環境整備に向けた取り組み (5) 学内での感染防止に関する取り組み (6) 資料作成、を行った。

【オンライン授業開始後の取り組み】(1) 学生調査 (①6月1日第1回学生調査の実施 ②7月30日第2回学生調査の実施)

【おわりに】新型コロナウイルスの感染拡大を契機に本学のオンライン授業は全教職員と学生・保護者の協力のもと急速に整えられた。コロナ禍での円滑な社会活動遂行のためにもICTの活用は推進され、大学教育においても同様である。我が国においてもハイブリット授業を勧める方向がある一方、看護・介護福祉という対人援助職に就く専門職の養成を任務とする本学において、教育方法のあり方には慎重を期する必要がある。特にICT教育の導入範囲の決定が本学の重要な方針の一つとなる。

**キーワード：**オンライン授業    大学教育    教育方法    ICT教育    新型コロナウイルス感染症

#### Abstract:

The online classes research project of our college was launched with the aim of enabling online lessons during the COVID-19 pandemic.

This report describes the process and efforts that led to the implementation of online classes through the positive cooperation of many faculty members, with this project taking the lead.

#### 【Preparation for online classes】

(1) Online class development support. (2) Technical support for teachers. (3) Improvement of college facilities. (4) In forming students of necessary preparations to attend online classes. (5) Implement COVID-19 prevention measures on campus. (6) Produced online class implementation manuals.

#### 【Efforts after the start of online classes】

Student satisfaction surveys were conducted twice after the start of online classes - June 1st. and July 30th.

#### 【Conclusion】

Due to the spread of COVID-19 infection in Japan, our college's online classes were rapidly arranged through the cooperation of many faculty members, students and parents. Even in college education, the use of information and communication technology is advancing in order to facilitate activities amid the spread of infection. In Japan as well, there is a direction to recommend online and face-to-face classes. However, at our college, whose mission is to train specialists in nursing and long-term care interpersonal support, we need to pay attention to what provides the highest quality of education, is an important policy at our college.

**Key words:** online classes, college education, education method, information and communication technology education, COVID-19 infection

1) 日本赤十字秋田看護大学  
2) 東京医療保健大学  
3) 岩手医科大学

1) Japanese Red Cross Akita College of Nursing  
2) Tokyo Healthcare University  
3) Iwate Medical University

## I 目的

本資料では新型コロナウイルスの感染拡大の中、本学でのオンライン授業の稼働に向けた取り組みを報告する。

## II 活動目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、我々の日常は大きく変更せざるを得ず、多くの制約が余儀なくされるようになった。大学教育の場においても新年度に開始されるはずであった多くの行事や授業は中止され、大幅な学習の遅れが生じることとなった。このような未曾有の事態の中、医療系大学においても学生と教職員が一体となり、未来の医療職の誕生に向けた学生と教職員それぞれの立場による取り組みが必要となった。

本学のオンライン授業検討プロジェクトは新型コロナウイルスの感染拡大に伴いオンライン授業の稼働を可能とさせる目的で立ち上げられたプロジェクトである。本プロジェクトチームが中心となりながら、多くの教職員の前向きな協力のもと授業実施に至った経緯と取り組みを報告する。

## III オンライン授業実施に向けた取り組み

### 1. オンライン授業検討プロジェクトが立ち上がるまでの経緯

全国に徐々に新型コロナウイルス感染症が拡大していく中、2020年3月6日秋田県内においてはじめて感染者が発生した。今後さらなる感染拡大が予想され、本学教務委員会ではオンライン授業の開始を視野にした検討を開始した。本学既存の環境を生かしながらオンライン授業のシステムを整える上で、本学で現在使用可能なテレビ会議システム、全学で使用可能な状態にするための準備期間、必要経費について情報システム委員会へ調査を依頼した。その調査報告書を持ってオンライン授業の開始を教授会へ提案した。

3月27日秋田県内においてさらに感染者が発生したことに伴い2020年度前期の授業を2週間延期することが決定された。それを受け教務委員会では授業進行表を変更し、授業の土日開講によりゴールデンウィーク明けには通常の進行に追いつく形を4月6日の教授会へ提示、同時にオンライン授業の整備と開始、プロジェクトの立ち上げ、予算化、学則変更等を提案した。教授会での慎重な討議の

結果、学則変更とともにオンライン化を進めて行くことが決定され、オンライン授業検討プロジェクトが立ち上がった。

オンライン授業検討プロジェクトの活動開始に先立ち、教務委員会で学生のWi-Fi環境を含めた調査（Wi-Fi環境、使用可能モデム、スキル等）を実施した。なお、遠隔授業の運用に関する法令上の規定に対応するため、2020年4月14日付で学則を変更した。

### 2. オンライン授業開始に向けた取り組み

#### 1) オンライン授業の実施方法について取り組んだ。以下取り組み内容を示す。

- ・オンラインミーティングソフトウェアの検討
- ・プロジェクトチーム使用ソフトウェア検討のための業者による研修
- ・プロジェクトチームZoom Video communications, Inc.（以下Zoomとする）研修、使用ソフトウェアの決定
- ・インターネット接続上のトラブルによりオンライン授業への接続が中断された場合の対応（授業の録画、後日OA教室での視聴）
- ・Zoomの使用料および権利取得の検討
- ・通信・セキュリティ等に関するトラブル発生への対応  
情報システム委員会へ依頼
- ・Zoomアカウント作成、ユーザー登録（4月30日）
- ・学校行事の検討（ガイダンス、教科書購入、健康診断）

#### 2) 教員の授業配信支援に取り組んだ。以下取り組み内容を示す。

- ・教員周知と意向調査（対面授業必須の科目、開講までの必要準備期間等）
- ・オンライン授業による授業内容の質の担保に関する検討
- ・出欠確認の方法、教員への周知
- ・時間割の検討（対面授業とオンライン授業の配置の検討）
- ・システムエンジニアの配置依頼（教員の授業配信サポートとトラブル発生への対応・通信に関する疑問の受け入れ）
- ・教員へのソフト使用方法の説明、研修会開催

- ・オンライン授業時の資料配布方法の検討
  - ・評価方法（試験実施の有無等）調査
  - ・教員への使い方説明会（Zoom、Google Classroom）
  - ・システムトラブル、配信支援に係る窓口の設営
- 3) 学内設備の整備について取り組んだ。以下取り組み内容を示す。
- ・配信室の整備（ソフトのインストール、カメラ等の購入・設置）
  - ・データ圧縮室の整備
  - ・4年生の施設実習ができない場合の対応検討、学内実習となった場合の教室確保・分配
- 4) 学生への平等な受講環境整備について取り組んだ。以下取り組み内容を示す。
- ・Wi-Fi環境、使用可能モデム、操作方法の説明を要する学生への対応の検討
  - ・学内聴講に向けた整備
  - ・シラバスの変更
  - ・保護者への説明
  - ・保護者に対するWi-Fi環境整備の推奨
  - ・学生へのZoom説明会実施
  - ・トライアル 1年生・2年生・3年生・4年生
  - ・トライアル後の調査実施
  - ・全学年一斉トライアル
  - ・操作方法の説明を要する学生に対する個別指導
- 5) 学内での感染防止について取り組んだ。以下取り組み内容を示す。
- ・感染防止に関するルール 保健管理委員会に依頼
  - ・OA教室・配信室での消毒方法の検討
- 6) 作成の資料
- ・「Google Classroomを使用した授業利用ガイド簡易版」（4月22日、5月8日）
  - ・「Google Classroom教員マニュアル」
  - ・「Zoomでオンライン授業開催マニュアル」随時（5回）改変
  - ・「トラブルシューティング」
  - ・「動画取り扱いマニュアル」
  - ・「遠隔授業早見表」
  - ・「遠隔授業の手引き（学生・教員）」
  - ・「対面授業における感染予防対策」

### 3. オンライン授業開始後の取り組み

2020年4月6日オンライン授業検討プロジェクトが立ち上がり業務を開始した。夏季休暇や夏季休暇後の看護学実習等学生への影響を考え、4月6日から2週間を期限と設定をし、2週間後のオンライン授業開始を目指した。2020年4月中旬、緊急事態宣言の発令を受け、秋田県知事より県内大学へ臨時休業の要請があった。そのため休業要請が終了した5月8日から学内実習を開始し、5月11日からオンライン授業を開始した。

#### 1) 学生調査

##### (1) 6月1日第1回学生調査の実施

これまで授業目標の到達度評価のために多くの科目は学内での筆記試験を実施していた。しかし自宅で実施可能な評価方法を検討せざるを得ず、必然的にレポート課題が増えることが想定された。この調査では課された課題量や授業時間外の学習時間、その他オンライン授業に伴う心身の不調や困難な点の把握を行った。その結果、課題量や学習時間の負担の大幅な増加や体調不良、科目ごとのZoom招待方法や課題提示方法の違いからくる煩雑さや見落とし、資料の印刷量の多さからくる経済的負担等、多くの課題が浮き彫りとなった。これらの結果は即時改善を目指し、詳細な分析を行う前に解決策を検討し教員へ改善依頼を行った。依頼内容は以下のとおりである。

- ・Zoom招待方法の統一
- ・共有資料の見にくさに対する対応の統一（余白の幅の設定など）
- ・印刷への配慮（枚数の削減・白黒印刷に耐え得る資料の提示）
- ・Google Classroom上で資料が提出済みにならない事への対策
- ・課題量の調整
- ・通信時間を調整し、学生が画面から離れる時間を増やす配慮
- ・詳細な分析後「オンライン授業開始後の学生調査結果を受けた対応策」を作成、教員への周知（6月17日）
- ・教授会へオンライン授業前後の大学印刷費の比較資料を提示、その中から学生への印刷費用補助を要請（6月18日）

- ・授業資料印刷用のコピーカード配布決定  
(1・4年生2枚、2・3年生3枚)
- (2) 7月30日第2回学生調査の実施  
第1回目の調査を受けた改善策の効果やその後発生した問題等の把握のために調査を実施した。結果、課題量や学習時間等多くは改善されていることが明らかとなったが、授業資料をGoogle Classroomに掲示する時期の遅さなどが明らかとなり、解決策を検討、教員へ改善依頼を行った。
  - ・質問の機会の確保を教員へ伝える
  - ・資料配信のタイミングの確認等
  - ・授業時間の統一

#### 4. オンライン授業実施にあたって考慮した事項

- ・学生の卒業に係る事項  
文部科学省の通知、厚生労働省の通知、日本看護協会の方針等
- ・授業の質の担保  
授業目標が達成できる授業展開  
学生との双方向性維持の工夫
- ・学生の心身の健康に関する事  
心身の不調、生活サイクルの変化に関する調査を実施、改善策を検討・実施
- ・著作権に係る事項
- ・想定外に配信・受講できなかった場合の対策、予算確保等

#### 5. オンライン授業が継続される場合に向けた役割の引継ぎ・共有

新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせた継続対応が必要なことから、オンライン授業検討プロジェクトから教務委員会へ業務内容の共有と引継ぎを開始した。

教務委員会では7月16日オンライン授業の今後の在り方として、大学教育の原則対面授業実施を確認した。同時に感染拡大状況に合わせ今後もオンライン授業を併用していく方針が出された。

後期授業に関し、臨地実習に対する施設の受け入れの可否を受け、学内実習となった場合には優先的に教室を確保すること、その場合感染防止を考慮した教室確保に問題が生じるため他の学年の授業方法を検討した。

9月27日一部対面授業実施とあわせて「後期対面授業開始にあたって」の留意事項を学

生・教員に配布した。

オンライン授業検討プロジェクトは、オンライン授業の形が整い実施に至っていることから解散し、以後教務委員会で引き継ぐ旨、2021年3月8日教授会で報告した。

#### IV おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に本学のオンライン授業は全教職員と学生・保護者の協力のもと急速に整えられた。コロナ禍での円滑な社会活動遂行のためにもICTの活用は推進され、大学教育においても同様である。大学教育においては多様な学生の受け入れや幅広い分野との連携による有意義な授業展開をも可能とする。一方、対人援助職に就く専門職の養成を任務とする本学において、学生同士や教職員、そして患者・利用者との直接的関わりを持つ機会は重要であり、教育方法のあり方には慎重を期する必要がある。特にどこまでICTを教育の中に導入をしていくかという点が本学の重要な検討事項の一つとなる。

オンライン授業検討プロジェクトが提案しながら全学で構築した「学びを止めない」ためのオンライン授業の体制は、今後実施していく中で新たな課題が生まれる可能性がある。随時吟味を重ねながら、学生が必要な知識と技術を身に着けられるようオンライン授業の体制を精選することが望まれる。そして看護・介護福祉の専門職業人、さらに人として決して技術だけでは成しえないコミュニケーションを通じた対象の理解、譲り譲られる経験、矛盾や葛藤、妥協という生身の経験が、学生にとって重要であることを確認し、オンライン授業の体制のより良い方向性を探っていくことが強く求められる。

#### 謝 辞

オンライン授業の体制を整えるにあたり、ご協力いただいた皆さまに感謝いたします。教職員においては日常の業務に加え、多大な煩雑さが生じたであろうこと、学生・保護者の皆さまにおかれましては感染に対する不安、同時に延期される授業、施設実習ができない状況、一人で学習を行わなければならない状況の中、ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、「Google Classroomを使用した授業利用ガイド簡易版」「Google Classroom教員マニュアル」を作成し、教員や学生に対する研修会、個別指導にあ

たってくださいました佐藤考司先生、丹治史也先生、児玉悠希先生、そして自発的に情報提供をしてくださいました多くの教職員の皆さまに心より感謝申し上げます。